



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成28年6月1日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 305 6月号

「雨の日、晴れの日」～きびしく叱られ、やさしくほめられ～

校長 末永 寿宣

梅雨の季節を迎えアジサイのつぼみが膨らみ、色づき始めました。自然の植物がたくましく伸びゆく様は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。

草や木の成長にとってなくてはならないのが、雨の日であり、またよく晴れた日です。どちらもちょうどよいバランスで繰り返されるので、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。

もし、雨ばかり降っていけば、植物は根が弱ってしまいうまく育ちません。逆に、晴れの日ばかりでも、水分がなくなって枯れてしまいます。

このように植物の成長には、反対のもの同士が必要です。子供の心の成長にも、雨と晴れのようにまったく反対のものがが必要です。そして、それらは「きびしさ」と「やさしさ」です。

子供たちは、「きびしさ」だけでは気持ちがすさんだり、いじけたり、いらいらしたりして、よい心は育ちません。また、逆に「やさしさ」だけでも甘えがでたり、わがままが出たりして、たくましい心は育ちにくいものです。

子供たちは、一日の中で何度か注意されたり、ほめられたりする機会があります。ここで大切なのは、きびしく叱られたり、指摘されたりした後で、なぜ注意されたのか気づくようにすることです。大きな声で怒鳴ったり、一方的に叱ったりするだけでは子供自身が気づくチャンスを大人が奪ってしまうことになります。

学校では、基本の「あいうえお」と同時に「きかこ」をいつも念頭において指導しています。

き＝気づく

か＝考える

こ＝行動する

- 何がいけなかったのかを意図的に気づかせます。
- 今度はどうすればよいのか考えさせます。
- そして行動できたときに、ほめてあげます。

この連続した体験によって、的確な判断ができる人に成長していきます。

自然の植物がたくましく伸びゆくように、尾久西小学校の子供たちをみんな「たくましい子」に育ててまいりましょう。